

こうちミュージアム ネットワーク通信

2024

VOL.

21

目次

CONTENTS

- 土佐の文化財 絵金蔵「絵金の芝居絵屏風」…………… P1
- 随想：「愛と勇気」の物語…………… P2
- 会員館紹介「まんが王国・土佐 情報発信拠点 高知まんがBASE」
「安芸市立歴史民俗資料館」「高知市立自由民権記念館」… P3

- 観光博覧会「牧野博士の新休日」連携事業…………… P4～5
- 全日本博物館学会 令和5年度研究会…………… P6
- 活動報告：野鳥観察会…………… P7
- 会員一覧…………… P8

土佐の文化財

◆絵金の芝居絵屏風



◀「浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森」

絵師 金蔵、通称「絵金」（1812～1876年）は、今から約160年前に土佐で活躍した絵師です。絵金は、歌舞伎や浄瑠璃の芝居を二つ折りの屏風に描いた「芝居絵屏風」を大成させ、有名となりました。

絵金の作品の中でも、香南市赤岡町に残されている23点の芝居絵屏風は高知県指定文化財となっています。今回はその中から「浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森」を紹介いたします。本作は、ゆるぎない画面構成とコントラストの強い色調が特徴です。ほの暗い闇から浮かび上がる幡随院長兵衛の鮮やかな衣装と白井権八の色気を含んだ美しい顔、さらに眼をこらすと鮮血にまみれた雲助たちの白い死体が生々しく迫ってきます。妖美、陶酔、残酷、怨念、滑稽など、さまざまな言葉で語られてきたこの絵は、もともと絵金らしい要素に満ちた代表作のひとつとして、いまも人気の高い作品です。

昨年、高知県外だと約半世紀ぶりの大規模展、大阪あべのハルカス美術館にて「幕末土佐の天才絵師 絵金」展が開催されました。この展覧会を開催するにあたり、作品の所蔵者、県内の学芸員、そして主催者の方達で何度も話し合いを行ったとお聞きしています。その展覧会が無事に好評で終了したことや、土佐の文化でもある各地域の夏祭りの展示方法が再現されていたことに所蔵者の方達も大変喜ばれていました。今後は県外の巡回展も決まっております。たくさんの方に絵金を知っていただこう努めてまいります。

（絵金蔵 中西洸太郎）

「愛と勇氣」の物語

香美市立やなせたかし記念館

仙波 美由記

令和7年春から放映されるNHKの連続テレビ小説に、アンパンマンの作者・やなせたかしと暢夫人の物語『あんぱん』が決定した。やなせ夫妻をモデルにしたながらもフィクションとして新たに描かれる「夫婦の愛と勇氣」の物語である。令和5年度の牧野富太郎博士をモデルにした『らんまん』に続いて、高知県出身者が取り上げられるとあって、県内では新型コロナウイルス感染症によって低迷した観光業の復活の起爆剤に、と期待の聲が高まっている。

やなせたかし（柳瀬嵩）は、大正8年（1919年）2月6日生まれ（2013年）である。父は、現・香美市香北町朴ノ木の出身、母は、現・香美市香北町永野の出身であった。中国の大学へ留学したモダンボーイであった父は、当時、朝日新聞社の記者をしており、やなせが5歳の時に赴任地である中国・上海で客死した。その後、やなせの弟は、父と伯父の生前からの約束通り、南国市で開業医をしていた伯父の養子となった。母もやなせが小学校2年の時に再婚し、柳瀬家を出て行くこととなったため、やなせも弟と同じく伯父の家へ預けられた。しかし、

ここで2人きりの兄弟の間には、はっきりとした待遇の差が生まれることになる。やなせの言葉を借りれば「弟はお医者さんの坊ちゃん、ぼくはなんというか坊ちゃん（の兄）が世話になっているという感じ」（詩「坊ちゃんの兄」より）であったという。やなせは、表面的には伯父の家で弟と一緒に暮らしながらも、戸籍上、これより先は天涯孤独の身となったのである。また当時、幼かった兄弟2人を残し、柳瀬家を出て行った母のことを悪く言う者もいたようだが、やなせは生涯母の事を恨むことはなく、そばで暮らすことができなかった反動からか、自分の人生を逞しく生き抜いた強い女性として、母・登喜子は、その後のやなせの「理想の女性像」となっていた。



て父親を亡くしており、自立した女性であったようだ。同僚の男性記者とも対等に渡り歩く「はちきん」であった暢は、少々気が弱く、自信が持てないところがあつた青年期のやなせにとつては、母に次ぐ「理想の女性」に映ったことであろう。ほどなくして暢にひかれていったやなせの様子は、想像に難くない。暢は、その後やなせよりも先に東京で職を見つけ退職し、やなせは暢を追いかける形で漫画家の道を目指して上京することとなる。道を切り開いていく強さを備えたこの暢との出会いが無ければ、その後の「やなせたかし」の成功は、なかったかもしれない。

今回のドラマの脚本を担当することが発表されている中園ミホ氏もまた、小学生の頃に父親を亡くされていた。当時小学生だった中園氏の愛読書で、寂しくつらい気持ちを慰めたのが、やなせの詩集『愛する歌』であった。小学生だった中園氏は、当時やなせにファンレターを送り、その後しばらく文通をしていたというから、不思議な縁を感じずにはいられない。この『愛する歌』は、サンリオの前身、山梨シルクセンターより出版された詩集で、初代の社長・辻信太郎氏とやなせを結び付けるきっかけとなった詩集である。売れない漫画家であった当時のやなせは自費出版で詩を発表していたのだが、その詩に感銘を受け、自社での出版を持ちかけたのが、辻氏である。やなせと同じく抒情の精神を愛する青

年であった辻氏は、『愛する歌』の出版をきっかけとし、その後サンリオと社名を変えた同社において、やなせと組んだ雑誌『詩とメルヘン』、『いちごえほん』、現在まで続く『いちご新聞』等の少女文化のパイオニア誌を数々生み出し、そして今や世界に誇るカルチャー「かわいい」文化の礎を築いていくのである。

文字通り「遅咲き」の作家・やなせたかしは決して順風満帆な人生ではなかった。大切な家族との別れを何度となく経験し、青春期には正義に対する価値観を根本から覆されるような戦争も体験した。周りからはその生き方が鈍重にも映るやなせであったが、自身作詞の『アンパンマンのマーチ』の一節「何のために生まれて 何をして生きるのか わからないうまま終わる そんなのはいやだ」と、暢の支えのもと夢を諦めることなく、自分の信念を貫いた人生であった。

ドラマ『あんぱん』では、やなせの94年の人生の中でターニングポイントとなった様々な人物との出会いも描かれていくことになるだろう。アンパンマンの作者として、人気作家となった晩年に世間では注目が集まりがちだが、このドラマではそこに至るまでに経験したやなせの人生が多く描かれることに期待したい。ドラマを通して、やなせが人との出会いを大切に「愛と勇氣」を失うことなく、如何にして運命を切り開いていったのか、その人生観が少しでも伝われば幸いである。

会 員 館 紹 介

まんが王国・土佐情報発信拠点 高知まんがBASE

高知まんがBASEは、まんが王国土佐の情報発信、人材の育成、人材の交流を目的に令和2年4月に開館しました。

県立公文書館の1階と3階に部屋があり、1階の読書ルームではおよそ15,000冊の雑誌や単行本を自由に読めるほか、高知県と所縁のある漫画家のサイン色紙コーナー、来館した漫画家の寄せ書きパネル、まんが甲子園コーナーなど漫画に特化した施設ならではの展示があります。

まんがBASEの特徴でもある『漫画が描ける』のが3階のまんがルームです。まんがルームでは液晶タブレットを使ったデジタル作画とプロの漫画家も愛用する画材を使ったアナログ作画が楽しめます。タブレットの操作方法や画材の使い方は専門の作画スタッフが教えるので初めての方でも十分楽しめます。休館日は火・木曜日。営業時間は平日（月・水・金）が12時から18時、土日祝日は10時から17時です。全て無料で利用できる施設なので、お気軽にお越しください。

（まんが王国・土佐情報発信拠点

高知まんがBASE 桑尾 和志）



安芸市立歴史民俗資料館

安芸市立歴史民俗資料館は、江戸時代土佐藩家老を務めた五藤家の屋敷跡に建つ資料館です。五藤家から安芸市への資料寄贈をきっかけに昭和60年にオープン。来年で設立40周年を迎えます。

五藤家に伝わる美術工芸品、武器、文書類などのほか、安芸市出身の人物に関するもの、市内で出土した古代の土器・瓦などを展示しています。

私たちの目下の懸案事項は、「資料館にどうやって足を運んでいただけるか」ということです。来館者には常連の方もいますが、「安芸市内に住んでいるけど、今日初めて来た」という方もちらほらいらっしゃいます。

そういった館のことを知らない人や、知っていても興味がない人に向けて情報発信をするために、昨年隣の書道美術館と共同で公式Instagram、X（旧Twitter）を開設しました。館の展示のことや安芸市の文化財に関わることはたまたまお堀の蓮が咲いたことまで、様々なことを投稿しています。職員の地道な活動が実を結び、フォローワー数は1000人を超えました。

現在の職員は館に来て日が浅い者が多いですが、それを活かして、先入観にとらわれない広報・普及を目指したいと思っています。

（安芸市立歴史民俗資料館 吉村 玲音）



高知市立自由民権記念館

当館は高知市の市制100周年を記念して設立された、自由民権運動を中心に土佐の近代史を取り扱う歴史博物館です。「自由は土佐の山間より」と意気込んだ植木枝盛の言葉のとおり、自由民権運動史上において土佐は大きな役割を担いました。そんな郷土の先人の足跡を伝える資料の収集・保管・展示をすること、その意義を現在から未来へと伝えていくことが当館の目的です。

そして本年は、自由民権運動の始まりとされる「民権院設立建白書」の提出及び土佐の自由民権運動を先導していった「立志社」の創立から150年目となります。節目の年に改めて、自由民権運動とは何だったのか、私たちの生活にどう影響しているのか、現代につながる歴史を考えてもらおうきっかけづくりが出来るよう、取り組んでまいりたいと思います。

（高知市立自由民権記念館 汲田 美砂）



牧野を生んだ土佐の自然 10.1▶3.31

こうちミュージアムネットワークでは、観光博覧会「牧野博士の新休日」に連携し、「牧野を生んだ土佐の自然」をテーマに、高知県の多様な生物と自然環境、そして人とのかわりを県内 19 施設が、多彩な事業で紹介しました。

中部

4 いの町紙の博物館

本物と見間違えるような精巧な土佐和紙の草花に感動したとお声をいただいています。



企画展示

▶ 紙博に咲いた牧野博士の花たち

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

パネル展示

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

5 越知町立横倉山自然の森博物館

冊子「牧野を生んだ土佐の自然～高知県の自然環境2023～」、いい物ができました。



▲スタンプ

企画展示

▶ 横倉山のお宝公開

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

講座・観察会・工作教室

▶ 牧野博士が愛した植物をシカから守る

日程 令和5年10月15日⑨

パネル展示

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

6 高知県立公文書館

当館はスタンプラリー初参加でしたが、「ついでに寄ってもらおう」ことで施設の存在を知ってもらう良い機会となりました。



企画展示

▶ ミニ展示「花を恋して90年 植物学者 牧野富太郎」

期間 令和5年10月2日⑨～令和6年3月22日⑨

7 高知県立高知城歴史博物館

普段は歴史文化の展示がメインの当館ですが、高知の自然の魅力や状況についてもあわせて紹介できて良い機会になったと思います。



▲スタンプ

パネル展示

期間 令和6年1月1日⑨・⑩～2月29日⑩

8 高知県立大学総合情報センター図書館

パネルを見やすく立てるのにみんなで苦労しましたが、多くの方にご来館いただき、嬉しく思います。



▲スタンプ

パネル展示

期間 令和5年11月2日⑩～12月28日⑩

東部

1 キラメッセ室戸 鯨館

リピーターの方が飽きない様に前半と後半でパネルの種類を変えたり工夫をしました。写真が大きくて見やすいのでお子様から幅広く見ていただきました。



▲スタンプ

パネル展示

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

2 芸西村文化資料館・筒井美術館

冊子・全ページパネル展示、西分メランジュと海岸植物観察会、バード工作教室を行い多くの方に来館、体験して頂きました。



▲スタンプ

企画展示

▶ 芸西メランジュと海岸植物

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

講座・観察会・工作教室

▶ 芸西メランジュと海岸植物

日程 令和5年10月15日⑨

▶ 高知の花「ヤマモモ」で作るバードカービング

日程 令和5年11月12日⑨

▶ 生きた化石「イチョウ」で作るバードカービング

日程 令和6年1月28日⑨



パネル展示

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

3 室戸世界ジオパークセンター

室戸の特徴的な生き物は深海生物が多く、話を広げるのに少し苦労しました！企画展の関係者の方に感謝でいっぱいです。



▲スタンプ

企画展示

▶ 室戸ユネスコ世界ジオパークと生き物たち

期間 令和5年10月1日⑨～令和6年3月31日⑨

講座・観察会・工作教室

▶ 室戸岬の散策会

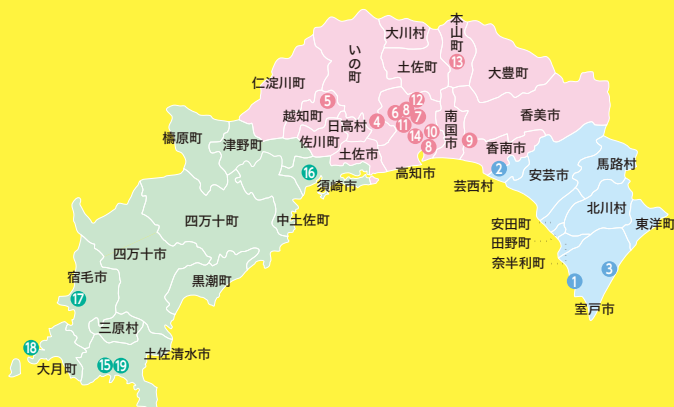
日程 令和6年3月16日⑩

▶ 苔玉づくり体験

日程 令和6年3月17日⑩

パネル展示

期間 令和5年12月15日⑩～令和6年3月17日⑩



中部

14 わんぱくこうちアニマルランド

屋内施設入り口にパネルを設置し、県内の動物系の現状を見ていただくことができました。



パネル展示

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月31日⑩

西部

15 高知県立足摺海洋館SATOUMI

各施設様と足並みを揃えて高知の魅力発信ができた事、大変嬉しく思います。



パネル展示

期間 令和5年10月15日⑩～令和6年3月31日⑩

16 四国自然史科学研究センター

平日は現地調査に出ていて留守にしていることが多いため、どのくらいの方が見に来ていただいているかを把握することが難しかったのですが、少しでも高知の自然の現状が伝わっていればうれしいです。



企画展示

▶ Save The Island Bear SOS!

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月31日⑩

パネル展示

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月31日⑩

17 宿毛市立坂本図書館

初めて来る県外のお客様もあり、スタンプラリーが、来館のきっかけとなったので良かったです。



パネル展示

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月28日⑩

18 黒潮実感センター

企画展示

▶ 大月町栢島における牧野博士の足跡をたどる

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月31日⑩



パネル展示

期間 令和5年10月1日⑩～令和6年3月31日⑩

19 竜串ビジターセンターうみのわ

展示やスタンプラリーの準備は大変でしたが、年末年始に来館されたお客さんにも楽しんでいただけたようです。



企画展示

▶ 漂流物から見る土佐清水の海

期間 令和5年12月6日⑩～令和6年1月8日⑩・⑪

講座・観察会・工作教室

▶ ジオの奇妙な冒険

日程 令和5年10月21日⑩

▶ 自然の素材を使ってクリスマスオーナメントを作ろう

日程 令和5年12月16日⑩

パネル展示

期間 令和5年12月13日⑩～令和6年3月31日⑩

中部

9 高知県立のいち動物公園

写真に興味を持たれる方や足を止めて文章を読んでくださる方がいらっしゃいます。より多くの方に高知の自然環境を知っていただければと思います。



講座・観察会・工作教室

▶ 野鳥の観察会～植物の種子と野鳥たち～

日程 令和6年1月14日⑩

パネル展示

期間 令和5年12月16日⑩～令和6年3月31日⑩

10 高知県立牧野植物園

牧野博士を育み、博士が愛した高知の自然の多様性を、多くの方に伝えることができた本事業に心より感謝します！

企画展示

▶ 企画展「牧野富太郎物語」

期間 令和5年11月3日⑩・⑪～令和6年5月12日⑩

講座・観察会・工作教室

▶ マキノ・ボタニカルクラブ 牧野博士とタンポポ

日程 令和6年2月17日⑩

11 高知市立龍馬の生まれたまち記念館

当初予定の関連企画（イラスト展）は内容変更となりましたが、パネル展を含め良い発信ができたと思います。



パネル展示

期間 令和5年11月15日⑩～12月22日⑩

12 高知こどもの図書館

スタンプラリーに参加できて良かったです。当館内に展示しているバードカービング（景品にあり）を見に来た利用者がいました。



企画展示

▶ まきのはかせを知ろう！

期間 令和6年1月19日⑩～2月4日⑩

講座・観察会・工作教室

▶ お城の新芽をみにいこう

日程 令和6年2月4日⑩

パネル展示

期間 令和6年1月19日⑩～2月4日⑩

13 本山町立大原富枝文学館

土佐の十宝山・白髪山。白骨林や根下がリヒノキの映像は必見。自然科学と文学の世界をともに楽しみたいいただきました。



企画展示

▶ 牧野富太郎が歩いた「国有林」

～白髪山編～草花を巡る随筆とともに

期間 令和5年10月7日⑩～令和6年3月31日⑩

パネル展示

期間 令和5年10月7日⑩～令和6年3月31日⑩

生物標本の収蔵問題を考える (国内の先進事例を参考に)

令和6年2月20日、オーテピアにおいて、「生物標本の収蔵問題を考える」国内の先進事例を参考に」をテーマに、全日本博物館学会の研究会が行われた。

県立の自然史博物館が無い高知県にとって、生物標本の収蔵は喫緊の課題となっている。こうちミュージアムネットワークとしても、この研究会を今年度の研修の1つに位置づけ、共催で開催した。

まず基調講演として、元栃木県立博物館の林光武氏に、「栃木県立博物館の新収蔵庫棟建設に至る歩み」と題して、令和2年3月に完成した新収蔵庫棟の建設までの経過について、詳細に報告していただいた。

昭和57年、人文分野、自然分野を扱う総合博物館として開館した栃木県立博物館は、開館以来約40年で増加した資料の収蔵に支障が出てきたことから、資料収集について様々に検討された結果、新しく収蔵庫棟をつくることになったという。林氏からは、行政内部において博物館

や資料の意義、収蔵庫の重要性などを、ていねいに何度でも伝え続けていくことにより、1つ1つステージをクリアし、仲間を増やしていくたとお話しいた



その後のシンポジウムでは、横倉山自然の森博物館の谷地森秀二氏から「高知県における自然史標本の現状」、牧野植物園の藤川和美氏から「高知県立牧野植物園における生物標本の現状と課題」、徳島県立博物館の長谷川賢二氏から「徳島県立博物館における資料収集・保存の現状」についてそれぞれ報告があった。

・谷地森氏…こうちミュージアムネットワークによる調査では、10年以内に管理できなくなる見込みの自然史標本が7万点以上もある。

・藤川氏…牧野植物園の標本庫ができるまで、高知県で採集された植物標本は、県外に流出していた。現在は約345,500点の植物標本を保管しているが、化石標本の保管が最大の課題。

・長谷川氏…開館後30年以上経ち、収蔵庫は余裕がなくなってきた。博物館資料は徳島県民の共有財産だという認識のもと、展示や教育で活用し、収集保存の意義を理解してもらうことが重要

といった内容の報告だった。

シンポジウムの後半では、林氏、谷地森氏、藤川氏、長谷川氏に登壇していただき、次の4つの視点にわけて意見交換を行い、この研究会のまとめとした。

1 「なぜ資料を残すのか」に対する理解

資料を残す意義を県民・議会・首長・行政(管理職・担当・財政課)などに理解してもらうことは非常に重要であり、博物館側からそれぞれに伝え続ける必要

がある。

栃木では、収蔵庫不足により、博物館の「設置目的」の達成に支障があることなどをくり返し説明したという。また、収蔵庫不足のため資料の収集をためらう

ことにより、大切な資料が気づかないうちに失われてしまうことに対する危機感も共有できた。

また、「なぜ資料を残すのか」に加え、「なぜ地元で保管する必要があるのか」の理解も必要である。

2 財源の問題

新しく収蔵庫を整備する場合、財源の問題は避けては通れない。栃木ではすべて県費で整備したという。林氏からは、「オーバースペックでないことの証明」

が重要とお話があった。県や市では防災など他の重要事業もある中で、博物館に予算をかけることになる。補助金やクラウドファンディングなどの財源を活用

できる可能性もあるが、いずれにしても「本当に必要な施設・設備は何か」を考え、必要最低限のスペックを目指す必要があるといえる。それが周囲の理解にもつながるのではないだろうか。

3 博物館としての努力

博物館が日頃からイベントなどを通して、資料保存の重要性を理解してもらえよう活動するのはもちろんであるが、栃木では博物館の意義・目的の議論も含めて、コレクション管理の在り方を見直し、収蔵資料のマネジメントを導入したとのこと。これにより、収蔵庫に必要なスペックを見極めることができるといえる。

そして何よりも、博物館職員が一体となって、ていねいに何度でも伝え続けていく姿勢が重要との林氏の言葉があった。

4 栃木／徳島・愛媛／高知

栃木は県立博物館が長年活動していたため、博物館や収蔵庫の必要性に対する理解が一定あるところからスタートし、新収蔵庫棟の建設に至った。

徳島・愛媛は、すでに自然史を扱う県立博物館がある。一方、高知には、植物を除き、県立の自然史博物館がない。そもそも必要性が理解されていないところからのスタート。スタートラインの違いを再認識できた。

そして最も重要な問題は「主体」の問題である。博物館があれば、博物館が中心になって議論を進めていけるが、高知ではそれが無い。また、学芸員の配置の問題もある。

しかし高知でも、県民・マスコミ・議員等の間に少しずつ理解は広がっている。そして、こうちミュージアムネットワークや県内の自然史関係の人々等、周りの協力体制はすでに整っているといえる。あとは「主体」となる組織や県の部署などさえできれば、議論を進めていけるのではないだろうか。

この研究会を通して、高知の現状と課題が整理できたと思う。高知でも、1つ1つステージをクリアして、少しずつ仲間を増やしていき、みんなでゴールを目指したい。

(高知みらい科学館

学芸員 岡田 直樹)

◆野鳥観察会

3月9日、高知市の筆山公園で
こうちミュージアムネットワーク
「野鳥観察会」が開催されまし
た。天気は晴れでしたが気温は低
く、風が強い日でした。10名ほど
が集い、2時間ほどゆるりとした
バードウォッチングを楽しみました。

鏡川でオオバンとヒドリガモの群れを
見ながら公園に向かいました。集合場所
にはイノシシ注意の張り紙があり、少し
驚きながらも野鳥観察会がスタートしま
した。

講師の濱田哲曉さん（日本野鳥の会高
知支部／NPO法人四国自然史科学研究
センター理事長）からはじめに双眼鏡の
使い方をレクチャーしていただきました。
ピントをあわせる細かな調節が難しく、
レンズをのぞくたびに違和感がありまし
た。筆山公園はコンパクトな環境で鳥た
ちを見ることができそうですが、木が茂っ
ており、双眼鏡で姿を捉えるのは大変でし
た。声をかけあい、いる場所を共有しな
がらかわいい小鳥たちを観察することが
でき、とても癒されま
した。

確認でき
た鳥（鳴き
声のみも含
む）は以下
のとおりで
す。

- ・ヒヨドリ
- ・ツグミ
- ・メジロ



- ・シジュウカラ
- ・ヤマガラ
- ・エナガ
- ・コゲラ
- ・アオジ
- ・ウグイス
- ・ジョウビタキ
- ・ミヤマホオジロ
- ・リュウキュウサンショウウエイ
- ・キジバト
- ・コジュケイ
- ・ハシブトガラス
- ・トビ

姿や鳴き声だけでなく、尾の振り方な
ど細かいしぐさを観察することやどのよ
うな植物に集まってくるのかで種類を判
別することができるなど、たくさん
のバードウォッチングの視点を教えていた
だき勉強になりました。他にも図鑑で調
べてみると、よく似ている鳥でも生息場
所の違いや大きさの目安となる鳥と比較
してみることで判別することができると
知りました。これらのことを多く知って
いるほど、観察が楽しくなるように思っ
ます。

印象に残ったのは「高知の鳥は警戒心
が強い」ということです。近くに寄って
こないため、写真家たちは苦労するそ
うです。愛媛県出身の私からしても「確
かにそうかもしれない」と感じました。文
学館の近くによくいるハクセキレイは全
く逃げていかなないので、参加してみたいです。

（高知県立文学館 笠岡花菜子）



令和5年度（2023）活動報告

【企画調整部会】

- ・総会 5月24日
- ・幹事 4月27日・6月15日・8月31日・12月6日・3月12日
- ・「こうちミュージアムネットワーク通信」の編集

・「牧野博士の自然日」キャンペーン「牧野を生んだ土佐の自然」事業

【研修教育普及部会】

- ・情報交換会 5月24日
- ①「四国自然史科学研究センター20年の歩み」山田孝樹（四国自然史科学研究センター）
- ②「あべのハルカス美術館」幕末土佐の天才絵師 絵金
- ③「文化施設における障害者への合理的配慮について」
- ④「高知市公文書等の管理に関する条例の概要について」河野崇（高知市文書法制課）

【研究部会】

- ・研究会 全日本博物館学会令和5年度研究会（共催）2月20日
- ・「生物標本の収蔵問題を考える」国内の先進事例を参考に「」
- ・基調講演「栃木県立博物館の新収蔵庫棟建設に至る歩み」林光武（元栃木県立博物館）シンポジウム「これからの生物標本の保管・管理・活用を考える」

観光博覧会「牧野博士の自然日」連携事業・「牧野を生んだ土佐の自然」

高知県の多様な生物と自然環境、そして人とのかわりを会員19施設の多彩な事業で紹介した。

【ポスター・リーフレット】

ポスター3百枚・リーフレット3万部を制作配布した。

【冊子「牧野を生んだ土佐の自然 高知の自然環境2023」制作】

高知県の多様な生物と自然環境を「現状」「変化」「人とのかわり」を視点に、24項目60ページにまとめた冊子を制作、関係機関に配布するとともにスタンプラリーの景品とした。

【連携パネル展】

冊子「牧野を生んだ土佐の自然 高知の自然環境2023」の内容をパネル化し、19施設で展示した。

- ①「高知県における自然史標本の現状」谷地森秀二（こうちミュージアムネットワーク）
- ②「高知県立牧野植物園における生物標本の現状と課題」藤川和美（牧野植物園）
- ③「徳島県立博物館における資料収集・保存の現状」長谷川賢二（徳島県立博物館）

- ・「野鳥観察会」3月9日
- ・見学会「横山隆一記念まんが館」5月24日
- ・児童クラブに関する情報提供
- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2023」作成
- ・高知市広報「あかるいまち」コラム「歴史万華鏡」リレー掲載
- ・小津高校SSH事業への協力11月17日

- ・【地域資料調査部会】災害時の会員館における協力体制の構築に関する協議
- ・高知県の自然史標本の情報を県民と共有するための事業
- 【新入会員】（令和5年4月・令和6年3月）とさの森美術館

- 【共催事業】日本展示学会第42回研究大会（高知大会）「地域をみせる」6月17・18日
- ・日本ミュージアム・マネジメント学会 令和5年度中・四国支部研究会
- ・「自然史系標本の課題と展望について」10月14日
- ・全日本博物館学会令和5年度研究会
- ・「生物標本の収蔵問題を考える」国内の先進事例を参考に「」2月20日
- ・四国ミュージアム研究会（於：高知）「地域資料とミュージアム」3月17・18日

【オリジナル企画展】

高知県の自然史科学に関する展示や牧野富太郎に関係する展示を11施設で開催した。

【講座・観察会・工作教室】

参加施設の個性を生かした、楽しく学びのある講座、観察会、工作教室を8施設12回開催した。

【スタンプラリー】

連携事業参加18施設19カ所で開催した。景品に冊子、会員館ミュージアムグッズ、バードカービング（野鳥彫刻）を提供した。

今年度は「らんまん」放映ということで、自然史を意識しつつ、当ネットワークならではの取り組みができた。特に冊子は中学生以上が理解できる内容で解説文と写真・図表を活用した、視覚的にもわかりやすいもので、高知県の自然史科学の発展につなげることができた貴重な成果である。

●こうちミュージアムネットワーク 会員一覧●

地 域	施 設 名	電話番号
東 部	安芸市立書道美術館	0887-34-1613
	安芸市立歴史民俗資料館	0887-34-3706
	絵金蔵	0887-57-7117
	香美市立美術館	0887-53-5110
	香美市立やなせたかし記念館	0887-59-2300
	香美市立吉井勇記念館	0887-58-2220
	キラメッセ室戸 鯨館	0887-25-3377
	芸西村文化資料館・筒井美術館	0887-33-2400
	高知県立芸西天文学習館	088-824-5451 (高知県文教協会)
	高知県立のいち動物公園	0887-56-3500
	香南市文化財センター	0887-54-2296
	金剛頂寺霊宝館	0887-23-0026
	創造広場アクトランド	0887-56-1501
	中岡慎太郎館	0887-38-8600
	民間非営利団体 高知文化財研究所	0887-52-0736
	室戸ジオパーク推進協議会	0887-22-5161
	むろと廃校水族館	0887-22-0815
	安田まちなみ交流館・和	0887-38-3047
	龍河洞博物館	0887-53-2144
中 部	いの町紙の博物館	088-893-0886
	いの町立吾北中央公民館	088-867-2133
	越知町立横倉山自然の森博物館	0889-26-1060
	高知県の学校資料を考える会	090-2780-3775
	高知県文化財団	088-866-8013
	高知県文化厚生スポーツ部文化国際課	088-823-9605
	高知県文化厚生スポーツ部歴史文化財課	088-823-9112
	高知県立高知城歴史博物館	088-871-1600
	高知県立公文書館	088-856-5024
	高知県立坂本龍馬記念館	088-841-0001
	高知県立大学総合情報センター図書館	088-821-7129
	高知県立図書館	088-823-4946
	高知県立美術館	088-866-8000
	高知県立文学館	088-822-0231
	高知県立埋蔵文化財センター	088-864-0671
	高知県立牧野植物園	088-882-2601
	高知県立歴史民俗資料館	088-862-2211
	高知市文化振興課	088-821-9215
	高知市春野郷土資料館	088-894-2805
	高知市民図書館	088-823-4946
	高知市立自由民権記念館	088-831-3336

地 域	施 設 名	電話番号
中 部	高知市立龍馬の生まれたまち記念館	088-820-1115
	高知城懐徳館（高知城管理事務所）	088-824-5701
	高知地域資料保存ネットワーク	090-5272-8852
	高知みらい科学館	088-823-7767
	子どものための民具体験館	088-822-1764
	佐川町立佐川地質館	0889-22-5500
	佐川町立青山文庫	0889-22-0348
	四国自然科学研究センター	0889-40-0840
	定福寺宝物殿	0887-74-0301
	すさきまちかどギャラリー／旧三浦邸	050-8803-8668
	竹林寺宝物館	088-882-3085
	特定非営利活動法人 地域文化計画	080-6721-3074
	土佐市立市民図書館	088-852-3333
	土佐豊永万葉植物園	0887-74-0301
	とさの森美術館	0887-82-0483
	豊永郷民俗資料館	0887-74-0305
	中村時計博物館	088-864-2458
	認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	088-820-8250
西 部	平和資料館草の家	088-875-1275
	まんが王国・土佐 情報発信拠点 高知まんが BASE	088-855-5390
	本山町立大原富枝文学館	0887-76-2837
	横山隆一記念まんが館	088-883-5029
	よさこい文化協会	090-8978-8219
	薫工ミュージアム	088-879-6800
	わんぱーく こうちアニマルランド	088-832-0189
	大方あかつき館（上林暁文学館）	0880-43-2110
	海洋堂かっぱ館	0880-29-3678
	海洋堂ホビー館四万十	0880-29-3355
	高知県立足摺海洋館 SATOUMI	0880-85-0635
	古溪城	0880-22-1654
	四万十市郷土博物館	0880-35-4096
	四万十町立美術館	0880-22-5000
	ジョン万次郎資料館	0880-82-3155
	宿毛市立坂本図書館	0880-63-2654
	宿毛市立宿毛歴史館	0880-63-5496
	津野町立図書館かわうそ館	0889-55-3001
	津野町立図書館虎太郎館	0889-62-3555
西 部	特定非営利活動法人 黒潮実感センター	0880-62-8022
	土佐清水ジオパーク推進協議会	0880-87-9590
	中土佐町立美術館	0889-52-4444

こうちミュージアムネットワーク通信 第21号 令和6(2024)年3月31日発行

■編 集 こうちミュージアムネットワーク

■事務局 高知県立高知城歴史博物館

■電話 088-871-1629

■<https://www.kochi-mn.net>